

集会宣言（案）

東日本大震災から5年が過ぎました。その余震も消えないなか、4月14日から熊本県や大分県を震源とする地震が連続して発生し、多くの犠牲者を出しています。活断層が動く直下型地震の被害の甚大さを目の当たりにしました。自然災害の脅威の前で人間は本当に無力です。地震列島のこの国では、地震に襲われる危険から逃れることはできません。伊方原発を動かしてはなりません。川内原発をいまずぐ止めなくてはなりません。日本のどこにも世界のどこにも原発はいりません。私たちは、原発No! の決意を改めて表明するために、今日、ここに集いました。

四国電力伊方原発3号機では、原子力規制委員会の使用前検査が行われています。6月下旬にもMOXを含む燃料装てんを行い、7月の再稼働がねらわれています。南海トラフの震源域の真上に立地し、中央構造線の「活断層帯」が目の前にある伊方原発を稼働させることは危険きわまりないことです。断じて再稼働を許すことはできません。

東京電力福島第一原発は、事前に事故のリスクが指摘されながら、安全神話に寄りかかり、自然の力を甘く見た結果、取り返しのつかない事故を起こしました。事故原因の解明はできておらず、誰も責任を取らないまま、大地も海も大気も核汚染が続いています。廃炉への道筋も見えません。約10万人もの人々が避難生活を余儀なくされ、震災関連死は2000人を超えました。住民や作業員の健康被害も深刻です。福島県内の甲状腺がんとその疑いの子どもたちは166名、子どもたちは不安の中で、今後もずっと放射能汚染と向き合い、たたかわなければなりません。

しかし、政府や電力会社は福島事故の教訓から学ばず、住民の命よりも経済を優先させ、放射能汚染地域への帰還強制をすすめ、原発の再稼働を強行しています。一企業の利益のために住民が不安に脅え犠牲になることは許されません。原発は停止していても電力不足は起こっていません。使用済み核燃料の処理は解決していません。核のゴミをこれ以上増やすことは、未来に「負の」遺産を残すことです。

国や周辺自治体の示す避難計画も机上の空論です。巨大地震が起きれば、四国の地質や地形は深層崩壊を起こす危険が大きく、建物、道路、橋、トンネルが損壊・崩落します。避難も救援も、事故への対応も困難となります。まして、原発事故の被ばくを避けての屋内退避など、現実味がありません。

原発事故が起きれば、故郷を追われ土地を奪われ、家族が分断され、生活が根こそぎ破壊されます。福島事故の最大の教訓は、原発は廃炉にするしかないということです。私たちは改めて強く訴えます。四国電力は伊方原発3号機を再稼働するな。2号機も3号機も廃炉にせよ。再生可能な自然エネルギー社会へ移行して、子どもたちに笑顔で安心して暮らせる未来を残すために行動することを宣言します。

2016年4月23日

伊方原発再稼働を許さない4・23 in 松山 集会参加者一同